



代表取締役
村山 勝己 氏

株式会社 崑崙印刷

http://www.konronprint.com/

本社：千葉県千葉市若葉区大宮町 2167-1
TEL. 043-266-0801

工場：千葉県千葉市緑区大野台 2-3-44
TEL. 043-309-4522

創立：1976年(昭和51年)

代表取締役：村山 勝己

問い合わせアドレス：konron@konronprint.com



両面即乾 A全機で守備範囲を拡げて、 タンデムパーフェクターと役割分担

株式会社崑崙印刷は、同業者からの仲間仕事に特化して、1976年に創業した。2007年の工場移転にあわせて、UV乾燥装置を搭載した両面専用機タンデムパーフェクターを導入したことで、両面カラー印刷の競争力が格段に高まった。次の課題は、増えつつある2/2の仕事はどうこなすか、だった。その答えとして、2016年にLED-UV乾燥装置を搭載したA全判片面・両面兼用4色機RMGT920PF-4+LED-UVを導入した。タンデムパーフェクターをメイン機に、両面即乾A全機をどう組み合わせるかで会社全体で最大効果を上げていくのか、代表取締役の村山勝己氏にお聞きした。

タンデムパーフェクターで飛躍

1976年の創業時、千葉県は仕事が少ない土地柄だった。仲間どうして仕事を奪い合うのが嫌で、「営業はしない」と決めて、同業者からの仲間仕事に特化した。同業者が嫌がる仕事を進んで受けることで、着実に成長を重ねてきた。2007年に旧社屋から現在地へ移転すると同時に、三菱重工製菊全8色両面専用機タンデムパーフェクターを導入した。当時、商業印刷分野では珍しかったUV乾燥装置を搭載したことで、パウダーを吹かなくてすみ、早く納品できるようになった。新台購入費と移転費を合わせて年商の三倍あまりの投資だった。「普通は第二の人生に転じる年齢(注：当時63歳)だったけど、これに賭けた。後から考えるとヒヤヒヤする投資だったが、そのお陰で新しい仕事を取り込めて、一段と飛躍できた」と、村山社長は当時を振り返る。会社規模が大きくなって、大手金融機関からも提案していただけるようになったが、メインバンクは昔から付き合いしている信用金庫だ。「苦しかった昔に受けた恩を忘れてはいけな

い。経営者仲間の集まりに今も定期的に通っては、そういう基本を忘れないように肝に銘じている」と、村山社長の経営に対する信念がうかがえる。同社ホームページには、お客様である印刷会社の視線で「お客様に崑崙印刷がお役に立てること」と銘打った宣言が詳しく書かれてお

り、経営姿勢が一貫している。

会社案内、パンフレットや写真集のようなカラー頁物が、仕事の7割以上を占める。それらを、菊全8色両面専用機タンデムパーフェクター、菊全ストレート4色機、菊半ストレート4色機の3台でこなしてきた。「ここ数年で印刷にかかる予算が下がって、従来は両面カラーだった仕事が、2/2や1/1に変わる傾向が目立っていた。このような仕事を嫌う印刷会社は多いし、当社もメイン機のタンデムパーフェクターで2/2、1/1をやるのはつら



24時間稼働する菊全8色タンデムパーフェクター

かった。特色を伴うので色替え作業が生産性を落とし、サブ機の菊全ストレート4色機にしわ寄せが及んで、従業員が慢性的に2、3時間残業をしていた。さらに、菊全機にA全紙を通す頻度が多く、いろいろな面で無駄が生じていた」(村山社長)。

両面即乾機の導入により ボトルネックを解消

このボトルネックを解消する目的で、2015年末から新台導入に向けて検討を開始した。



新設備を取引先にご覧いただく内覧会を2017年7月に開催
(左:開催案内チラシ、右:内覧会の風景)



(写真左から) 取締役工場長 平川哲也氏、
機長 横田光由氏、課長 八本貴之氏

RMGT ショールームで行われる展示会に向いてA全機のメリットを体感したり、反転機で薄紙を刷る印刷会社を見学した。既設機でUV 効果を実感していたので、今度導入する機械でも油性機は考えられなかった。最近インキを盛るトレンドなので、LED-UV が果たして完全に乾くのか何度も評価を繰り返した。そういう経緯を経て LED-UV を搭載して両面即乾できる A全判片面・両面兼用 4色機 RMGT 920PF-4+LED-UV を導入した。

導入から半年が経つが、入替前の菊全機と比べた A全サイズ刷版のコスト削減効果は

い事に、面倒な仕事を受けるから、4/4 の仕事が付いてくる事も多い。当社のメイン機はあくまでもタンデムパーフェクターだ。これをどれだけ回せられるかが大事だ。2/2 をやれる機械があればメイン機が空くんだよ。そこに両面カラーの仕事が入られる。自分が思った通りの導入効果を出せている」と村山社長。

「両面即乾機のおかげで、特色 2/2 の外注先に困っていたお客様から大歓迎された。県内の仕事が過半を占めていた導入前と比べて、今では東京からの仕事が 6 割超にまで増えた。他所の油性印刷でトラブル時の刷り直しなど、瞬発力が求められる仕事で、当社が使われているように思う。当社は 100% 仲間仕事なので、どんな仕事も断らないことが大切だ。RMGT 920PF-4 は 2/2、1/1 の仕事が殆どを占めるが、急場には 4/0 をこなせるので、本当に助かる」
(村山社長)。

これから求める印刷機とは

「厚紙は当社でやらないことに決めている。機械スペックの範囲内に入っていて刷れることと、優しく刷ることは違う。機械に優しく大切に使いたい。その方が永く良いパフォーマンスで使える」と村山社長。機械の実力を理解して、工場を常に綺麗に維持して、機械の能力を最大限引き出すことにこだわる。

「印刷機メーカーには、我々使う人の立場をより深く理解してもらいたかったので、昔から開発の方と頻りに意見交換させていただいた。小ロット化が進む中、最高速を上げるの



両面即乾印刷に効果を発揮するA全機 RMGT 920PF-4+LED-UV

言うまでもない。「LED-UV だからこそ、両面印刷して乾いて排紙される。乾燥不良に伴うトラブルがなくなったし、2日かかる仕事が1日で済む。おまけに、この印刷機はパートさんを含めて1.5人で回せている。この効果は計り知れない」(村山社長)。

お客様にも従業員にも歓迎された 920PF-4+LED-UV

「営業的には、2/2 の仕事をお客様が断らずにすみ、当社も仕事をいただける。面白

入替前には、平均 2、3 時間かかっていた残業が、920PF-4 導入後にはなくなった。経営者としては仕事を増やせし、従業員は、特色印刷に伴う色替え作業など、面倒な印刷付随作業をせずにすむようになった。さらに、24 時間稼働するタンデムパーフェクターが、本来の 4/4 に特化できることで本刷り時間を増やせ、版数が 2 割以上増えた。会社としては 2/2 仕事を取り込めて、残業削減、メイン機の版数増加という 3 つのメリットを享受できているという。



55インチ大画面モニターで印刷機各部を確認しながら操作できる、プレスインフォメーションディスプレイ

でなく、使い手の面倒をいかに取り除くか、現場で使いやすい印刷機、後工程まで考えてトータルで優しい印刷機を創ってほしい」と、村山社長は RMGT の開発姿勢に対して想いを語った。

リョービMHIグラフィックテクノロジー株式会社
東日本営業部 東京営業一課 安田 晃二

機械性能や印刷品質に厳しい村山社長と意見交換を繰り返して、最適な仕様でお届けできました。既設機との相乗効果により新台が大きく売上げに貢献しているとお言葉をいただいております。より多様化する顧客ニーズに応えるべく、営業・サービス一体となってご提案していきたいと思っております。